

トイレ問題のアンケート分析と現状の課題

北海道大学大学院農学研究科・山のトイレを考える会 愛甲 哲也

1. はじめに

山のトイレ問題の解決には、登山者や関係者の認識を把握した上での行動が欠かせない。特に、全道の状況や一般登山者の認識、山岳会の認識や取り組みについての情報が整理されているとは言えない状況である。

山のトイレを考える会の今後の活動方針及びトイレ問題の解決策を探るため、広く情報・意見を収集することを目的に、第1回フォーラムの出欠葉書、会場アンケート、大雪山国立公園銀泉台での登山者アンケート、第2回フォーラムの出欠葉書での意見の収集を行った。

ここでは、その概要を紹介し、現状の関係者の認識を探り、今後の課題について考えた。

2. 方法

1回目のフォーラム(2000年8月29日)の開催に先立って、行政、山岳団体、ガイドなどの関係者に案内文と返送用葉書を郵送した。400件配布し、108件の返送があり、葉書に意見を書き添えたものが44件だった。

1回目のフォーラムの終了時に、来場した方々にアンケートを依頼した。内容は、山の環境問題の認識、山中での用の足し方、今後のトイレ問題のあり方であった。156名の参加のうち、110件の有効回答を得た。

一般登山者への啓蒙活動の一環として、大雪山国立公園銀泉台において、2000年9月23日午前10時より午後4時まで、下山する登山者・観光客に、無作為にアンケート用紙を配布し、記入を依頼した。内容はフォーラムのアンケートとほぼ同様とし、298件の回答を得た。

今回のフォーラムに先立って、前回と同様に案内文と返送用葉書を郵送した。山のトイレ問題に対する意見に加えて、山岳地での現状も記載してもらった。598件配布し、141件の返送があり、現状の報告や意見が記されていたものが94件であった。

3. 結果

1) フォーラムアンケート

山岳地のインパクトの中では、トイレの汚さと放置された糞尿に対する認識が最も高く、対策の必要性が強く感じられていた。用を足す場所としては、登山口が多く、小便はそのまま、大便是土や葉をかぶせるとした意見が多かった。今後のトイレのあり方については、登山者による費用負担に同意する意見が多く、トイレの無い場所での持ち帰りを半数以上が必要と考えていた。

山のトイレ問題に関しては、登山口などへのトイレの設置や携帯トイレの普及に加え、登山者のモラルの向上や、行政との連携の必要性など幅広い意見が寄せられた。

フォーラムに対しては、現状の理解が深められた、認識を深めた等の意見が多く、継続することを求める声も多かった。

2) 銀泉台アンケート

用を足した後の処理については、小便はそのままが多いが、紙の持ち帰りや大便の携帯トイレの使用を実践している登山者は少なかった。

今後のトイレのあり方について、トイレの新設がより多く求められていた。紙の分別や携帯トイレをよく知らないといった声も聞かれた。

3) 有識者と一般登山者の認識の相違

フォーラム参加者を問題意識をもつ人々、銀泉台の回答者を一般登山者と考え、両者の回答を比較した。用を足した後の処理については、両者とも小便はそのままが多いが、紙の持ち帰りや大便の携帯トイレの使用は、フォーラム参加者がやや多く、一般登山者には持ち帰りはほとんど認知されていない。

今後のトイレのあり方については、フォーラム参加者で経費負担への同意が多く、登山規制、紙持ち帰り、携帯トイレの使用への同意が多かった。それに対して、一般登山者はトイレの新設をより多く求めていた。

4) 葉書で寄せられた山の現状

紙やし尿が散乱している山岳地として 85 件の報告があった。なかでも、利用も多いため、報告が集中しているのが、大雪山で、次いで札幌近郊となった。大雪山のなかでも、南沼、ニペソツ山の報告が特に多く、具体的な対策が求められていた。同じ基準で判断したわけではないので、単純に比較することは出来ないが、報告箇所は全道に及んだ。統一した基準に基づき、全道的な現状の把握が必要だと考えられる。

5) 山のトイレ問題の認識の相違

アンケートと葉書で寄せられた意見は、非常に多岐にわたった。紙の持ち帰りやし尿の持ち帰りといった用を足す際の問題、トイレを設置して欲しいという要望、その具体的場所、トイレの設置や維持管理にかかわる費用負担の問題などの具体的な対策、登山者の意識改革・啓蒙の必要性、入山者の規制や公園管理の見直しなどの長期的な視点からの指摘もあった。それらを、トイレ問題の解決策としてあげられた項目に限り、10 種に集約した。最も多かったのは、トイレ設置を望むもので半数を超えた。次いで既存のトイレの改善、利用者からの使用料の徴収であった。

次に、この 10 項目に対する回答パターンをみるため、対応分析を行った。空間上に位置づけられた項目の内容から、登山者の啓蒙、利用者の管理、し尿を処理する場所、処理方法という 4 つの次元が見いだされた。この 4 次元の空間上に、ガイド、行政、登山者、山岳会、その他と 5 つに分けた回答者を布置したが、その位置に特徴はみられず、認識が多様であることが示された。

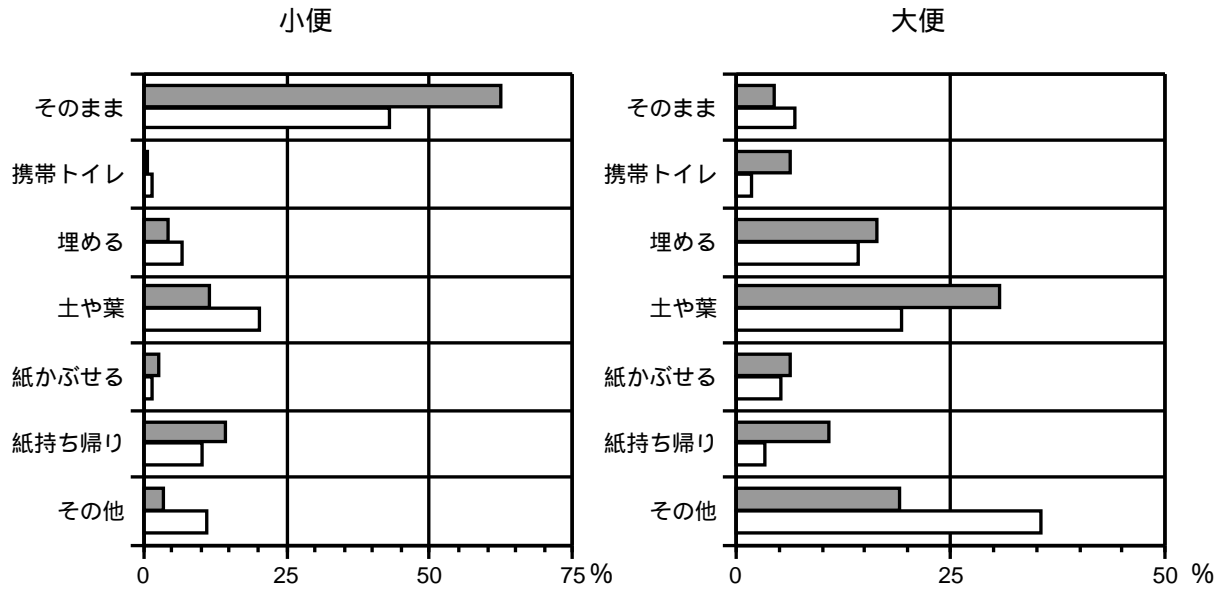
4. まとめ

・一般登山者の認識はフォーラムの参加者と比べて低く、特に携帯トイレの認知度は低い。現状の理解も含めた啓蒙が必要と考えられる。

・山のトイレ問題の解決策への認識は多様である。ガイド、行政、山岳会も、統一した認識を有している訳ではない。最終的な合意形成を図るためには、情報の収集と公開、共有といった段階を経て、行政と山岳会、登山者、ガイドなどの間で議論がかわされる必要がある。

なお、長くなりますが、参加者のみなさまに、葉書で寄せられた生の声を読んでいただきたいと思い、図表のあとに、葉書による回答を順不同でならべました。様々な意見があることがわかりいただけだと思います。ご一読下さい。

用を足した後の処理



今後のトイレのあり方

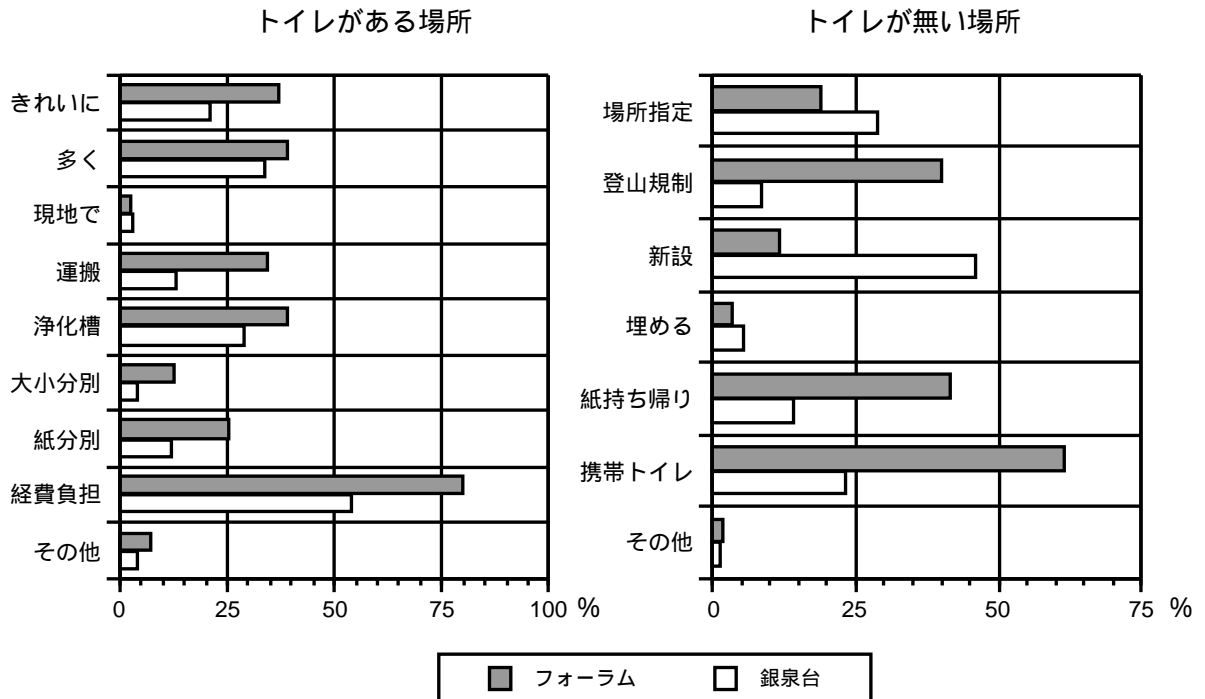
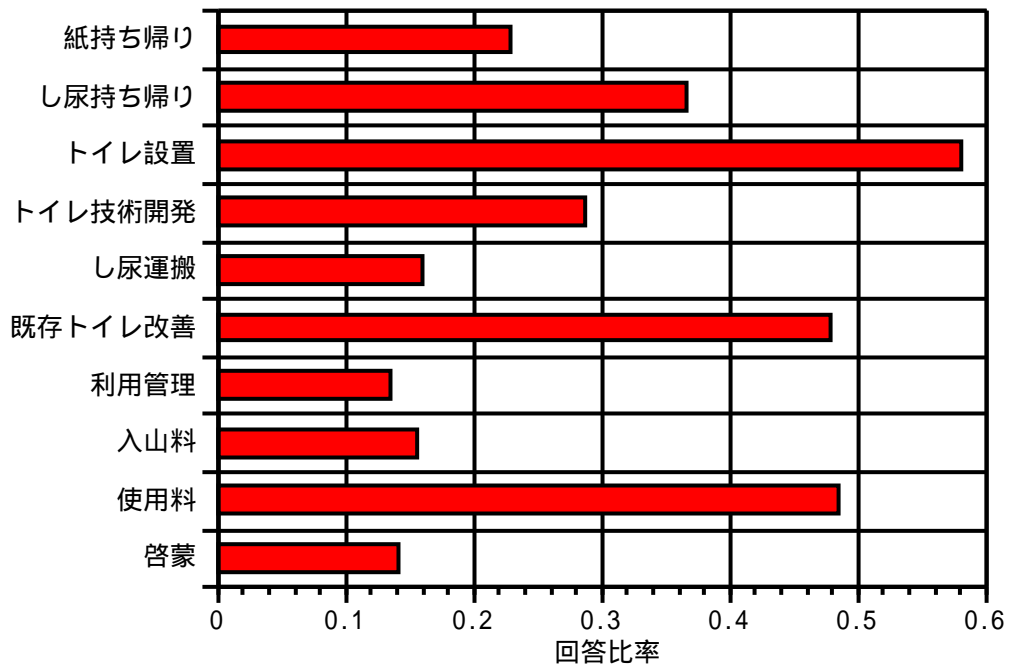


図 フォーラム参加者と一般登山者の認識の比較

表：葉書で、尿尿や紙が散乱していると指摘された箇所

山域	場所	備考(特に)	度数	小計
全域			3	3
札幌近郊			2	13
	積丹岳		2	
	定山溪天狗岳		1	
	無意根山		1	
	樽前山	頂上付近	2	
	恵庭岳	駐車場	2	
	手稲山		1	
	ヘルベチアヒュッテ		1	
	空沼小屋		1	
	道南			
大千軒岳		1		
狩場山		1		
大雪山	横津岳		1	42
	北大雪		1	
	表大雪		1	
	北鎮岳		1	
	黒岳石室		2	
	旭岳石室		1	
	中岳温泉		1	
	赤岳		1	
	白雲岳		2	
	忠別岳避難小屋		2	
	沼ノ原		3	
	ヒサゴ沼		2	
	トムラウシ山		1	
	北沼		1	
	南沼		9	
	十勝連峰		1	
	美瑛富士避難小屋		2	
	十勝岳避難小屋		2	
	ニベソツ山	杉沢出会、前天狗	5	
	然別湖周辺		1	

知床	斜里岳		1	6
	羅臼岳	羅臼平、弥三吉水	4	
	硫黄山		1	
日高	芽室岳		1	9
	剣山		2	
	伏見岳		1	
	幌尻岳	取水ダム付近	2	
	アボイ岳		3	
利尻	利尻山		5	5
夕張	夕張岳	2	2	
不明	不明		1	1
総計			62	62



図：山のトイレ問題の対策への意見

「お近く、またはよく行かれる山岳地のトイレと尿尿や紙の状況について教えてください。」
第2回フォーラム出欠葉書への回答（返送141件中、85件）

- ・ティッシュ等のゴミが増えている
- ・トムラウシ山～南沼。ニペソツ山～前天狗手前のハイマツ帯
- ・トムラウシ北沼、紙の散乱。忠別でハエがひどかった。
- ・ニセコでは、山の上にはトイレ施設は少ないが、整備されている。毎年、予算化し、汲み取り、清掃を実施。
- ・ニセコの登山口周辺はトイレが整備されつつある。
- ・ニペソツの杉沢出合いは、トイレができたため、少しはよくなった。南沼付近がひどい
- ・ニペソツの前天狗、トイレのあと
- ・ニペソツ杉沢出合、尿尿と紙が目立つ
- ・ハイマツの中で紙をかき捨てる、遠いところほど。
- ・ヘルベチアヒュッテ、空沼小屋、垂れ流し。
- ・ほとんどが処理されず垂れ流し
- ・芽室岳、登山口にトイレあり、管理よし。トムラウシ山十勝側、南沼付近がひどい、対策必要
- ・芽室岳、伏見岳、剣山、トムラウシ、ニペソツ、赤岳、登山道に紙、見苦しい。大勢が登る山の頂上はアンモニアの臭いが
- ・各地方、ゴミは少なくなった。岩およびハイマツの裏、足を踏み込めない。
- ・興部道有林管理センター雄武林務署管内？、避難小屋の周辺ではティッシュが散乱
- ・銀泉台、紙を分別、焼却。白雲、溶ける紙を使用してとの注意書きがある。暑寒別、登山口にトイレがある。アボイ岳、幌満側にトイレがなく、様似駅を利用するしかない。
- ・恵庭岳、定山溪天狗岳は、人気の山なのにトイレがない。どこへいっても、紙はかならず見かける。
- ・恵庭岳、登山口で紙。積丹岳、無意根山、頂上で紙。
- ・黒岳石室、行政の手で汲み取りを。
- ・札幌と周辺の山々は大雪山ほど汚染がひどくないが、アプローチが長い山は大は我慢できても、小はつらい。登山口にトイレがあればと思う機会は多い。
- ・札幌近郊、山中、登山口にトイレ、キャンプ場が少なく、高校生は山中に放置せざるをえない
- ・札幌近郊、大雪山、使用済みティッシュ。
- ・山菜取りの人が入るところが汚い。積丹岳
- ・室蘭岳、カムイヌプリは、途中で山小屋・トイレあり。処理方法は不明だが、地元山岳会の手入れにより清潔
- ・室蘭岳、市営の白鳥ヒュッテには、汲み取りトイレがあり、市の清掃車が定期的に収集。美瑛富士避難小屋、南沼、尿尿の放置。
- ・室蘭岳周辺はトイレは完備、汲み取り式。
- ・斜里岳、登山道横にティッシュの花が多すぎる。雌阿寒、雄阿寒、あまりみかけない。
- ・手稲山、自分は木や岩陰で、用を足し、紙の上から枯れ葉や草をかけていた
- ・手稲山、余市岳、小樽赤岩山、夕日岳、八剣山、あまり問題ない。
- ・狩場山、登山口から山頂にはトイレはない。登山口4km手前の賀老高原にはある。山中に、多少、尿尿、紙はあるがまだ危機的な状況ではない。
- ・十勝岳、登りやすく、宿泊もないため、尿尿や紙は少ない。十勝岳避難小屋付近はトイレがなく、休憩時の尿尿がよりみられる
- ・暑寒別岳は登山口にトイレがあり、日帰りのため、ほとんど紙はみられない。
- ・赤岩青巖峡、占冠村と協議の上、トイレ設置。管理の一部はクライマーが。
- ・然別湖周辺の山、登山口には簡易トイレがある。水洗ではなく、立派なものではない。毎日、掃除をしているが、周辺に用を足す人もおり、便や紙が放置されている。
- ・南沼にトイレがないことに驚いた。
- ・大雪の南沼、尿尿と紙
- ・大雪山、忠別、ヒサゴ、黒岳のトイレの臭気と虫に生徒が悲鳴。
- ・空沼の万計山荘は、快適。
- ・大雪山系、避難小屋・野営地の周辺、登山道の休憩地点の周辺
- ・大千軒、奥二股野営地にはトイレあり、行動中は林内でようを足している。

- ・大千軒岳、横津岳、トイレは登山口のみ。
- ・大千軒岳、福島・千軒コース、登山口トイレあり、途中の広い川原にトイレ計画中。年間千人程度の登山者数で自然浄化で十分。紙散乱皆無。
- ・松前・旧道コース、年間 100 名以下、清浄。松前石崎・新道コース、年間 1000 人程度、登山口にトイレあり、清浄。
- ・樽前山では、七合目駐車場にはトイレがあり形跡はみられない。東ピークと火口間の火口原、シシャモナイコースを登り切った外輪山とドーム間の大岩の陰にティッシュが多くみられる。登山規制前は、苫小牧市が清掃登山を実施。
- ・中岳温泉がひどい、紙も残っていた
- ・天塩岳、登山口と頂上手前的小屋にトイレ完備。紙は落ちていない。避難小屋の汲み取りがされているか不明。
- ・当会では、紙はナイロン小袋で持ち帰り。女性の中には、生理用品を使用し、紙を使用しない人も。大便是放置
- ・天塩岳では登山口と山頂の下にトイレを設置、現在のところ問題なし。トムラウシ。
- ・道東の山は登山者が少ないのか、あまり話題になっていない。登山口のトイレで用を足しているようだ。
- ・道内の山岳地帯にはトイレがほとんどなく、紙が散乱
- ・道南の山はひどくない、自然浄化が間に合っているのでは。大雪山の沼ノ原、南沼がひどい。
- ・徳舜別岳、登山口付近のキャンプ場の町管理のトイレを利用
- ・南沼の岩場、厳冬期でも夏の凍結したものがある。旭岳石室の横、冬の登山者のもの。冬の問題。
- ・日帰りでは下か、我慢。十勝岳避難小屋の付近、植物もなく、トイレもない。
- ・日帰り登山では、登山口にだいたいトイレがある。
- ・日高、剣山、トイレが古く、手入れもされていない。外で用を足す人もいるかも。
- ・日高幌尻岳、取水ダム付近。かなり汚い。
- ・年々紙の量が多くなっている
- ・白雲、ヒサゴ周辺、汚れの範囲が広がっている。
- ・白雲のトイレの前はクロユリがスゲ類に変化している。
- ・美瑛富士避難小屋周辺、沼ノ原付近、知床、岩尾別から羅臼岳への登山道、水場、野営地付近も悪臭が漂い、自然にマッチした常設のトイレがあれば
- ・平山、ニセイカウシュッペ、沼ノ原～五色～トムラウシ、愛山溪～沼の平～永山岳～当麻岳、銀泉台～赤岳～白雲
- ・北鎮岳、使用済みの携帯トイレが捨てられていた。
- ・幌尻岳は登山者が多い
- ・夕張岳、ヒュッテの汲み取り式トイレ
- ・羅臼岳、登山口にはトイレがあるが、山中にはない。硫黄山、登山口にもない。斜里岳、登山口にトイレあり。
- ・羅臼岳の羅臼町側では、登山者の尿尿や紙をみかけることはない。
- ・羅臼岳登山道沿いの、羅臼平、弥三吉の水周辺、尿尿と紙が散乱、悪臭。
- ・利尻山、かなり改善されている。今後も継続した努力が必要。
- ・利尻山、きわめて問題。携帯トイレの無料配布も、効果は少ない。
- ・利尻山、定期的な調査はしていないので、具多的な数値はない。感覚としてはひどくなっていると思うが、ティッシュの花はまだ見かける。

(注：順不同。道外の事例、個人的な対処などは、省きました。)

「山のトイレ問題について、ご意見をお聞かせ下さい。」

第 1 回フォーラム出欠葉書への回答 (返送108件中、44件)

第 2 回フォーラム出欠葉書への回答 (返送141件中、94件)

- ・3合目のトイレから 10 時間はトイレがない。今年から携帯トイレ、水溶性ティッシュの配布を実施。登山者 2 万人の見積もりで、6 月中旬から 8 月中旬で、用意した 1 万個を配布した。回収状況の把握は難しいが、好評で、昨年よりきれいとの情報も。未使用の持ち帰りもかなりある。使用場所が限定されるので、トイレテントも必要 (8 合目)。トイレの建設には、処理技術の向上、管理の省力化、財源の確保が必要。(利尻山)

- ・アポイでは登山口に山中にトイレがないことを知らせる看板を設置して、登山前に用を足すようにすすめているが、5合目の小屋周辺では、紙が散乱し、山頂では踏み込めない場所も出てきている。山の上のトイレも検討されているが、自治体での対応にも限界がある。登山者もモラルの向上を。
- ・アポイ岳は年間3万人の登山者で賑わっている。特に、低い標高のため、老人から子供まで、容易に登山できる。登山客の増加と共に、トイレ問題がクローズアップされ、議会でも数回の質問が提出されているが、電気・水道もなく、設置後の維持管理の問題もあり、苦慮している。有効な設置方法、管理方法について、知りたい。
- ・お盆の富良野岳～トムラウシの縦走で、持ち帰ってみようと思っています。
- ・ツアーのお客で、紙を持ち帰りする方が増えている。携帯トイレの持参者も増えたが、排便の持ち帰りは困難。トイレの設置と既存トイレの回収・維持をもとめる。山によっては入山料を。
- ・トイレがあれば人がきて、維持・費用が困難。なければ垂れ流しになる。ジレンマ。
- ・トイレ問題は、施設管理の人が困っている状況で、一般登山者は汚いものは見ず、きれいな景色にばかり目がいつている。日本の山のモデルケースとなるように北海道で大きな声をあげていただきたい。
- ・トイレ問題は以前から私たちの中でも大きな問題。簡易トイレは、近くの施設が迷惑しているという話も聞く。
- ・阿寒、斜里、羅臼では、紙が散乱。非常に不快。紙は持ち帰るというキャンペーンを。携帯灰皿を配布するように、チラシと持ち帰りよう袋を。
- ・夏期集中する山では、ルート、車規制の他に、入山者数制限をしては？林道のある程度手前での閉鎖がよい。山域を分けて考える必要がある。集中度の問題。
- ・休憩タイムを長めにとると、ゆとりがあって、後始末をきちんとします。人間、あわてると散らかします。
- ・緊急の課題として山岳団体で取り組む必要。登山者には携帯トイレの義務づけが必要。
- ・携帯トイレの使用は困難。紙の持ち帰りと、入り込み数の多い場所はトイレ設置か、規制。
- ・携帯トイレは縦走では不安。利尻でもらったが、日帰りでは利用しない。実際の利用を考えると、大きすぎ、かさばり、持ち帰る途中が気になる。おむつの方が持ち帰りやすいのでは？
- ・景勝地周辺のトイレ整備は、美観・衛生・観光誘致上、重要だと認識している。当町でも「山彦の滝」など散策地周辺にトイレを設置、対策を図っている。
- ・現状では持ち帰りがベストかもしれないが、縦走だと困難。野営地にはトイレがほしい、ヘリコプターで回収できるものを。地道な活動による登山者の意識改革を。
- ・公的資金を運用して、著名な野営地に簡易トイレをヘリコプターで搬出入する。美観よりも、現実の富栄養化と踏み込みによる高山植物の植生の変化、破壊を防止していくのが急務。携帯トイレの研究と、商品化による普及に努力。
- ・高山植物や山の自然の美しさなど、きれい事を語る人は無数にいるが、困難で深刻なトイレ問題を語る人は非常に少ない。出来ることから考え、行動を起こすしかない。何が出来るか考えたい。
- ・国立公園エリアの山に関して、行政指導による入山制限、入山料を徴収してトイレ、ゴミ、その他の経費に、ゴミ持ち帰り、その他モラルのチラシやポスターの配布。
- ・今まで話をしたことはなかったが、深刻な問題と考えている。長期の山行では、携帯トイレは困難。山中にトイレ設置が望ましい。ティッシュペーパーを使わないようにしている。
- ・今年から、携帯トイレの普及啓発と調査を実施。トイレの設置はコストの負担が大きいため、登山者のマナーによる部分が多い。携帯トイレの普及に重点をおき、使い勝手のよい商品の選定にも配慮したい。(大雪山)
- ・最新の山小屋トイレ設備、海外のトイレ状況を知りたい。
- ・山でのゴミ、トイレ問題は、当方でも悩み。良い方法がないか？
- ・山にはいるときは持っていったものはすべて持ち帰るという考えが必要。うんこもゴミととらえ、山に捨てるのではなく、下界で処理すべき。携帯トイレの普及のため、トイレテントの設置と登山口の回収箱、トイレ設置、財源確保、登山者・観光客の意識改革が必要。
- ・山のトイレ問題は重要。自然と共に生きるのが最も気持ちよい。自然を大切にすることが人間に与えられた義務だと思う。
- ・山登りはしないが、自然環境への人間の進入と保護のバランスの問題では。
- ・施設整備は、入山者を増やして、オーバーユース問題を助長してしまう。登山者全員に携帯トイレの携行を、テイクイン・テイクアウトの徹底を。入山料を徴収し、レンジャーを配し、盗掘、

安全対策も兼ねた管理システムを。

- ・紙の持ち帰りが広まるように行動したい。
- ・持ち帰りも必要だが、山の中での処理の色々なアイデアも必要。
- ・趣旨に賛成。携帯トイレ推進すべき。公的機関で山小屋の尿尿処理をバイオで。
- ・十勝、沼ノ原にはトイレ設置を。どこにトイレ設置を求めるかのより多くの人の合意形成も必要。
- ・色々な意見を聞いて、地元でなにができるか参考にしたい。
- ・水溶性ティッシュを今までは捨ててきた。今年は溶けるティッシュでも持ち帰っている。生理用ナプキンを使い、紙を使用しないようにしている。自分のゴミは自分で持ち帰るということを徹底させ、登山口にトイレの設置を。携帯トイレは抵抗があるがいずれ必要となる。ガイドが率先して参加者に紙持ち帰りを呼びかけて欲しい。
- ・先進諸国の対応情報が知りたい。長年培ってきた知恵があるはず。
- ・宣言は厳粛かつ神聖なものでありたく、アピール効果をねらった奇抜さに偏ってはいけない。案の表題は運動精神を表現しているものに。特定な山名の列挙にも一考を。
- ・大雪山などは、登山および観光を売り物にしているので、どんどんトイレを設置してほしい。
- ・大雪山系では、行政が熱心に取り組み始めている。
- ・登山者の人数など、必要なデータを山域ごとに、毎年記録して統計データとして残すシステムを作り上げて欲しい。そのデータはインターネットで公開する。必要なデータの記録内容（登山口名簿など）は、統一するよう関係組織で調整、整理、集計するボランティアを作っては。
- ・問題を先送りせず、緊急の対策が必要。入山料を徴収して、ヘリコプターで輸送、トイレの改善、持ち帰り、宿泊地の限定化、山上での野営禁止など、色々な方策を広く検討すべき。
- ・有料トイレ設置や携帯トイレ使用は短期的な解決策。長期的にオーバーユース問題も対策検討を。大雪山のロープウェイの存在や観光ツアーのあり方に問題がある。昔の山を取り戻す、植生や動物の生息地の回復を。
- ・夕張岳でも、会議等で話題になり、地元山岳会など各団体で取り組みが実施されているようだ。
- ・利尻では、杓形コースに回収ボックスが無かった。ニベソツは登山口にトイレがあるが、ひどい。観光地図等で、山をうたっている場所には、せめて登山口のトイレ設置、掃除を。
- ・「携帯トイレありき」ではいけない。トイレはオーバーユース問題と関連しあっており、登山者のモラル、ガイドの指導、トイレ処理の技術的進歩、欧米の例や日本の山岳地とのネットワークによる共同解決など、あらゆる視点からの検討が必要。行政の腰が重く、行政に頼るだけの姿勢も良くないが、各自治体に温度差がある。
- ・オーバーユースが問題。紙の質の問題への意識向上が必要
- ・ツアー登山者の対処、大雪山などの有料化、登山口のトイレ設置の検討を
- ・トイレは基本的に設置しない。大は登山口で、小は水溶性の紙を。マナーとして守らせる。トイレを設置する場合は、山の岩を利用した簡易なものを、景観を損ねない場所に。一度、設置すると限りなく山が汚れる。
- ・トイレを作り、管理費等を公共事業として、国（環境省）が負担。
- ・トイレ問題には公衆衛生の観点を。ヨセミテのキャンプ地の吊り上げ式便槽トイレがよい。
- ・どんな山でもトイレは必要。設置運動など、具体的なアドバイスを。
- ・ブームで安易に山には入る人が多くなり、会の活動を活発にして、より多くの人に何が大切かを伝えることを望む
- ・フォーラムに参加するまでは知らなかった。登山者は携帯トイレの携行を。登山届けの提出時に、寄付金を集めては。
- ・マルチバクテリアを使用した汚泥の自然分解を
- ・意識改革による携帯トイレの普及を、下山後の処理や縦走中の携行は負担。日帰りは山中で排便しない、登山口や山中へのトイレの設置の努力、使用料を取る方法を考える、ちり紙の処理と用を足す場所を考える。
- ・一般登山者へのマナー・問題意識の普及
- ・営林署の中に登山課を設けて、登山道・トイレの問題を解決してほしい。利用者による、入山料、利用料の負担も。
- ・会では、関心も薄く、携帯トイレの使用もない。今後、例会等で啓蒙していきたい。
- ・観光地化している大雪山、札幌周辺、道東、知床などは、行政が明確な予算付けと処理を。運動の方針を示すことが必要、個人の持ち帰りが定着するまで運動は続けるべき。
- ・銀泉台のアンケートで問題を考えさせられた。以後、気をつけたい。

- ・携帯トイレには後処理の問題がある。登山者が、考えて行動を。
- ・携帯トイレの義務化と、スポーツ店での販売、宣伝。道内数力所でフォーラムの開催を。
- ・携帯トイレの使用。入山料の聴取と、公設トイレを。
- ・携帯トイレは実用的でなく、困難。水溶性ティッシュの普及を。沢水がいずれ飲めなくなるだろう、残念だが仕方ない。
- ・携帯トイレは処理経路に問題。山岳トイレの整備充実が重要。
- ・携帯トイレは必要と思うが、使用するにはいたらない。PR 不足もある。
- ・携帯トイレを仲間に薦めているが、持ち帰ってからの処理に困る。ザックに格納スペースを、安心して行動できる。
- ・個々に対策を考えるべき。日帰りが多く、山中で大便をすることはない、小便は垂れ流し。
- ・個人の負担を前提に、尿尿や紙の処理を。モラルの呼びかけだけでは解決しない。するしないにかかわらず、携帯トイレの持参を義務化する。
- ・公的団体が管理するトイレ基金のようなものをもうけ、将来資金源として、順次登山口に大用のトイレを設置しては
- ・最低限のマナーを守る組織としての指導は実施、未組織者のオーバーユースが問題。100 年近くの伝統があり、新しい理念による指導は難しい。
- ・山の適正利用や、適正な整備、適正なマネジメントの問題に帰着する。公園管理という大きな視点からみる必要がある
- ・山へのトイレの設置は維持管理で問題、登山者のモラル改革が一番。携帯トイレの普及促進。地道な PR と清掃作業、安価な携帯トイレ、罰金制度。
- ・山岳ガイドブックに登山口のトイレの有無の記述を。ない場合はその近くの公衆トイレの案内を。
- ・山小屋、旅館ですます。女性には小便の際に、水溶性ティッシュの使用を指導。携帯トイレの普及、啓蒙。登山口にトイレを。
- ・山小屋のトイレ汲み取りは地元での対応が困難で補助金が必要。多人数が入る野営地にはトイレ設置、使用料、山岳会員は年間負担金と使用料を。水溶性ティッシュのコスト減と、販売普及を。
- ・山中にトイレ、難しければ登山口にトイレ。紙を持ち帰ることはできるが、排泄物は困難
- ・山登りだけでなく、海、湖、山菜取りも、ゴミ持ち帰りの啓蒙運動が必要。
- ・施設設置の経費は市町村単独では難しい。環境省の今後の見通しを知りたい。マナーも一部で行われていることがすべてのように思われ残念。
- ・紙の散乱やトイレ道の景観の問題と、水質・地質の汚染の問題がある。自分は川にし、紙を使わない。どちらが水質に影響があるか知りたい。
- ・紙の持ち帰りの指導を、携帯トイレの普及を。
- ・持ち帰りには抵抗を感じる。登山道へのトイレの設置が理想的だが財政的に困難。登山口にトイレを。ティッシュ禁止、トイレトペーパー使用、登山道のそばや山頂では用を足さないことを。
- ・持ち帰りの定着には時間がかかる。トイレの設置が先では。
- ・持ち帰りは困難。山岳会による指導が必要。
- ・持ち帰りを根付かせるための説明会などが必要。
- ・自然へのインパクト全体について考えると、入山規制が必要だと思う。
- ・受益者負担が必要
- ・処理の研究が必要
- ・少しなら、自然の力で浄化される。入山者が多すぎるので、登山入門や登山のための講習が必要
- ・色々な考え方があり、地域ごとの特性もあるため、一筋縄に解決とはならない。2000 年に各所でこの問題が取り上げられ、多くの方が気にし始めているのは確かなので、「考える会」の活動に期待したい。多くの方が分かりやすいトイレ問題の数値化が必要。納得させるデータを全道で集めるのがよい。
- ・新しいバイオや、風力、太陽発電によるトイレの設置を。
- ・水に溶ける紙なら捨ててよいわけではない、団体のリーダーに訂正をお願いしている。高山植物群に深く踏み込んでいいるが、周囲が背を向けてあげればよい。
- ・水場から離れた場所で、用便後は土や葉をかぶせる
- ・組織内での徹底はできるが、未組織者には徹底できない。未組織者が多い。
- ・多くの方が問題を認識することが大切
- ・多くの方が利用する山は携帯トイレの普及が必要。トイレの設置も、場所や構造を考えて、水質汚染にならないように、場所を検討して。

- ・大小便、ペーパーの分別処理を山小屋、登山者が一体となってすすめたい
- ・大雪ではオーバーユースを、規制も含めて考える段階
- ・大雪山系では、近い将来入山規制が必要だが、具体的方法は難しい。山小屋では有料トイレの設置、周辺の尿尿の回収、携帯トイレの使用、啓蒙、普及、回収方法の検討
- ・沢水を汚染しないような対策が必要。
- ・登山が大衆化したため、キャンプ地へのトイレの設置が必要
- ・登山マナーが低下している、一部または全面的入山禁止もやむを得ない。
- ・登山口トイレ設置、避難小屋のトイレ有料化、紙の持ち帰り、携帯トイレの使用、山岳団体への働きかけ
- ・登山口に、コンポスト型などのトイレの設置は、技術的・財政・管理に問題が多い。登山者のマナーが大切。一般登山者へのトイレの PR が必要。山専用のトイレトーパーを手軽に買える環境の整備を。
- ・登山口にトイレの設置。登山者にトイレ設置基金への協力を。
- ・登山者がすぐできること、入山前に用を足す、紙を持ち帰る、未組織登山者への啓蒙、パンフの配布やマスコミの利用
- ・登山者が紙パック等を持参。トイレの設置、汲み取りができるものを。
- ・登山者が多くなると、対策が必要。
- ・登山者で経費を負担して対策をたてる
- ・登山者と、行政もできることから
- ・登山者に、排泄の仕方、処理の仕方の学習を。処理用具（携帯トイレ）の普及、平坦地にはトイレ TENT を。高齢化が進行すると、登山人口は減少する。それまでのオーバーユース問題はしつけから。
- ・登山者の多い山にはトイレを。
- ・登山者の多い大雪山などの高山帯では、避難小屋に携帯トイレを。
- ・登山人員の制限、費用負担をもとめる。
- ・登山前にトイレに、山中は水場を避けて、紙を持ち帰る。
- ・登山道の数カ所にトイレを。尿尿を還元できるようなもの。入山制限、施設充実の検討を。
- ・当団体では、水溶性ティッシュまたは再生紙トイレトーパー（芯無し）を持参。
- ・混雑する山域ではトイレは必要、ツアー客は有料。
- ・当面、登山口に持ち帰りを訴える案内、使い方・処理・問題点を記載したパンフレット、携帯トイレを配布。集中箇所にはトイレ TENT を。オーバーユース問題の一つとして、行政を含めた根本的な対策が必要。
- ・南沼を3年ほど野営指定を除外してはどうか。
- ・日帰りでは持ち帰りが可能で、すべき。3泊を超える縦走では難しいので、トイレ整備が必要。特に野営指定地に。
- ・入山者から協力金を徴収し、山中に簡易トイレを設置し、ヘリコプターで定期的に汲み取りを。
- ・入山者の処理負担が必要
- ・入山者数によっては、入山料を徴収し、山中に環境・美観に配慮したトイレを設置。携帯トイレの普及を。尿は、男性はそのまま、女性は紙持ち帰りを。
- ・入山料徴収によるトイレ整備。携帯トイレの徹底は困難
- ・方法は不明だが、費用の負担が必要。
- ・北海道の経済にも観光は重要。そのために、恵まれた自然を保護し、破壊した自然の修復が必要。山も観光の一部なので、汚さない対策を。1. 登山口に行政でトイレを設置・管理、2. 一般大衆に自然のみならず汚したりゴミのポイ捨てをしないよう改心させる必要がある。
- ・北海道の山の土地所有はどうなっているのか。登らせてもらっているという意識が必要。
- ・万能薬はない。登山者のモラルを見直し、対応できる様々な方法を試行錯誤し、解決していくしかない
- ・要所に常設のトイレ TENT、またパーティ・個人の持参。換気が素早く、規格は統一。

(注：順不同。直接、関係の無い意見などは、省きました。)